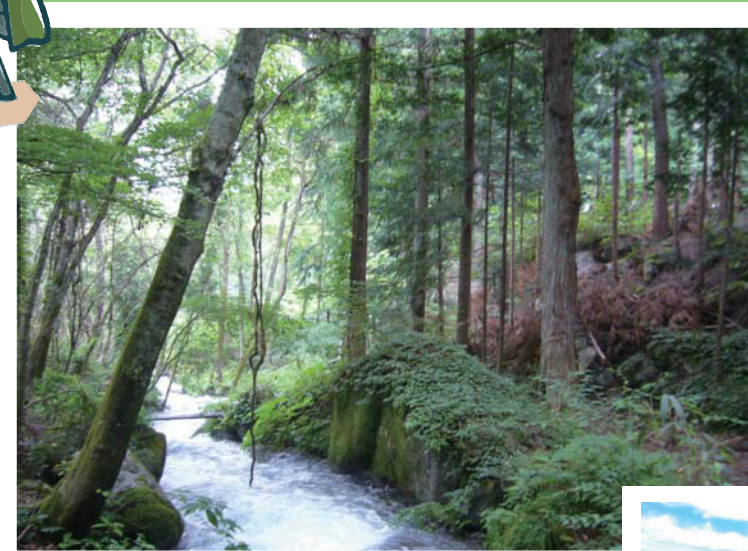
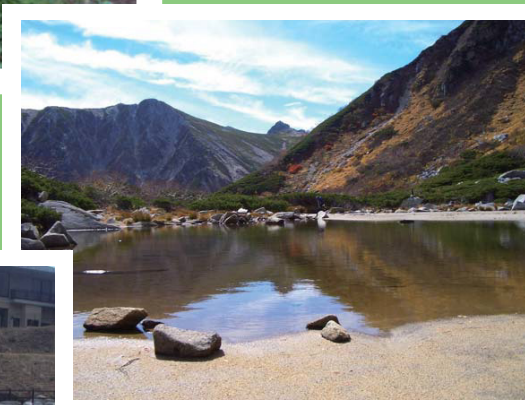




こもれ陽の径



濃ヶ池カール



河床大礫

自然と人がおこなす青空博物館 駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム



副 読 本



自然

文化

暮らし

歴史

中央アルプスの豊かな自然に育まれた駒ヶ根高原一帯の
自然、風土、人々が築き上げた
文化や郷土を守る砂防施設など、
地域全体を野外展示物と見立てた青空博物館
駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム



1 限目：土砂災害について学ぼう！

見学ポイント①



さほうじょうほう 砂防情報センター

中央アルプスのなりたちや暮らしを守る砂防について、模型や映像などで知ることができます。

たろう あめ太郎

あめ太郎ではさまざまな強さの雨を車に乗って濡れずに体験することができます。



どしゃさいがい 土砂災害ってなに？

日本は自然豊かな国です。その反面、さまざまな自然災害が起こります。

そのひとつに土砂災害があります。

大雨が降ったりして、山や住宅地にある急な斜面がくずれて、土や岩が水といっしょになって私たちにおそいかかってくるのが、土砂災害です。

どしゃさいがい しゅるい 土砂災害の種類

①どせきりゅう 土石流

山からくずれてきた土や岩が水といっしょになって、ものすごい勢いで流れ落ちてくるものです。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速 20 ～ 40km という速度で一瞬のうちに家や畑などを壊してしまいます。



辰野町 あかはね

②じ地すべり

斜面が広い範囲にわたって動く現象です。家や田畑を乗せたまま大地がゆっくりと動くこともありまますが、突然いっきに何メートルも動くことがあります。そのため、たくさんの家や田畑などが壊されてしまいます。

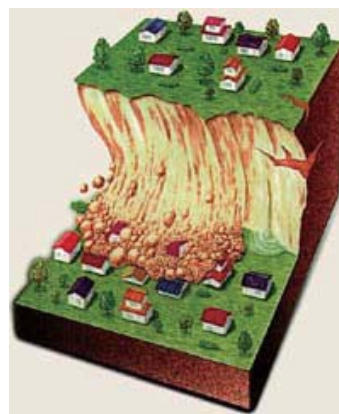


長野市 じづきやま



③がけくずれ

雨や地震などによって、急な斜面がくずれる現象です。前ぶれもなく、一瞬のうちに起こることが多いため、家がこわれて逃げおくれで亡くなる人が多いのです。



松本市 あずみ

あめ つよ どしゃさいがい かんけい 雨の強さと土砂災害の関係

土砂災害は大雨や雨が降り続くと発生しやすくなります。土砂災害から身を守るためには雨の量（雨量）に注意する必要があります。

1 時間 20 ミリ以上、降りはじめてから 100 ミリ以上になると土砂災害が起きる可能性が高くなります。

1



5～9ミリの雨量

屋根をたたく雨の音が聞こえます。あちこちに水たまりができます。

2



10～19ミリの雨量

雨の音で話がよく聞き取れなくなります。あたり一面に水たまりができます。

3



20～29ミリの雨量

どしゃ降りの雨です。かさをさしていてもぬれてしまいます。

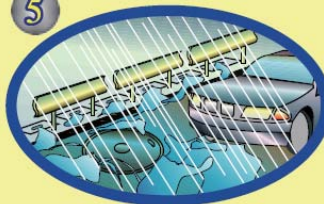
4



30～49ミリの雨量

バケツをひっくり返したような雨です。道路が川のようになります。

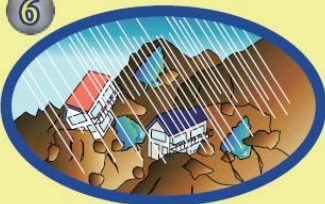
5



50～79ミリの雨量

滝のようにゴーゴーと降り続きます。かさが役に立たなくなります。

6



80ミリ以上の雨量

息苦しくなるような雨です。大人のひともこわさを感じようになります。

?

雨量を自分で知るためにはどんな方法があるでしょう。

まな 学んだことを自由に書きましょう！





2限目：伊那谷の地形と地質を学ぼう（1）

見学ポイント②



太古の扇状地面

「巨石公園」の対岸に見える高さ40～50mのところに薄っすらと見える線はおよそ2万年前の扇状地面と考えられています。7～5万年前ごろ地球は氷河期をむかえ、2万年前ごろは再び暖かくなつたと言われています。氷河はとけて少しづつ下方へ移動し、そのときに山肌をけずりました。そうして扇状地がつくられたと考えられますが、どのようにつくられたのでしょうか？

伊那谷はどのようにしてできたのか

地球が生まれてから約46億年。大陸の移動、火山の活動、川の働き、気象などさまざまな影響をうけながら、気の遠くなるような年月を経て現在のすがたに変わってきました。

伊那盆地ができ始めたのは、今から250万年くらい前からで、南アルプスが先に高くなり始め、中央アルプスが高くなったのはずっとあとからです。



アジア大陸の東のふちで日本列島の土台が少しずつ成長してきた。



日本海ができつつあった。多く見られる島は大陸のかけら。



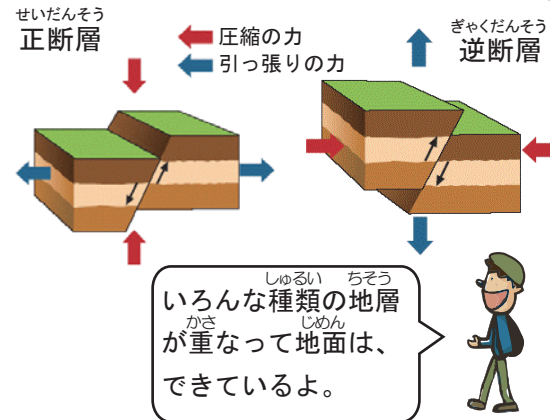
海面が低下し、日本列島は朝鮮半島や樺太と陸つづきになっていた。

断層って何？

断層とは、地殻変動（地震・火山活動など）によって地層や岩石にひび割れができて、これを境にして、両側の地層や岩石が、ずれて食い違いができたものです。

ショートケーキをフォークで真っ二つにするような感覚をイメージすると解りやすいかもしれません。

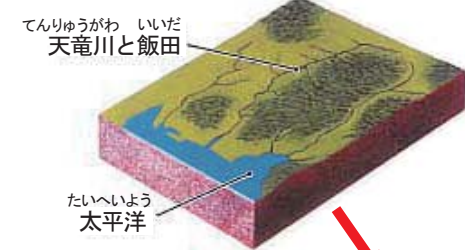
受ける力の向きによって、ずれかたにも種類があります。



駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム

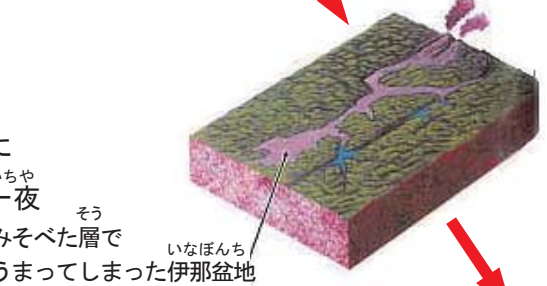
250万年前

①天竜川が流れ始める。
天竜川が流れ始めたころは、山がなく、太平洋まで、ひと続きの広い平野だった。



100万年前

②“みそべた層”で伊那盆地がうまってしまふ。
伊那盆地が生まれて少したったとき、諏訪・岡谷方面にはげしい火山の噴火があった。流れ出した火山泥流は一夜のうちに盆地をうめつくした。



50万年前

③南アルプスが上昇したため巨大扇状地で盆地がうまる。
南アルプスが先に上昇を始めた。そこから、運び出された砂やれきが盆地を埋めて大きな扇状地をつくった。伊那盆地は扇状地で広く平らにつながった。



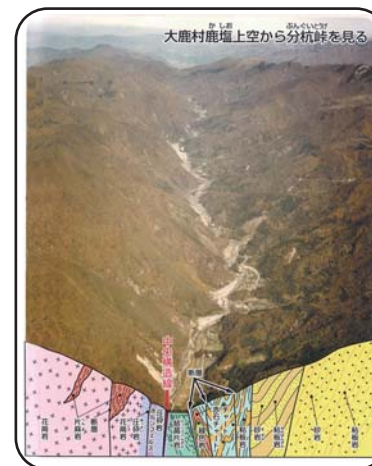
5万年前

④中央アルプスののはげしい上昇が始まる。
中央アルプスはあとになって勢いよく上昇を始め、ぐんぐん高くなった。山すそは盆地と山脈の境目のため断層ができた。中央アルプスはどんどんけずられて、砂やれきをつくり、山すそにたくさん扇状地をつくった。



現在

⑤山と盆地の地形が今のようにできあがる。
日本の屋根といわれる南アルプス、中央アルプスの上昇はますます続いて断層もたくさんできた。山脈だけでなく、盆地全体も上昇し、盆地の中にも断層ができた。



左の写真を見ると、谷をさかいにして東と西で地質が異なっていることが分かります。このさかい目を走っている断層を中央構造線といいます。

- ①それぞれの岩の色や形はどうなっているか調べてみよう
- ②日本地図を使って中央構造線が通っているところを調べてみよう



2 限目：伊那谷の地形と地質を学ぼう（2）

見学ポイント③

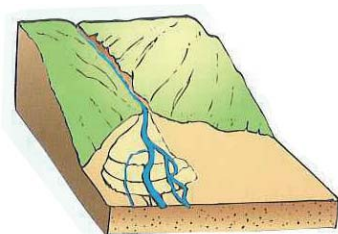


七名石

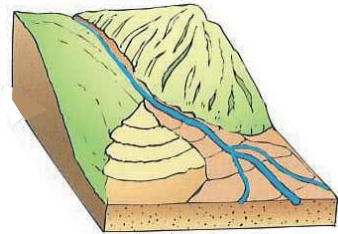
「切石公園」を中心に「七名石」と呼ばれる7つの巨石が点在しています。どのようにしてこんな巨石が駒ヶ根高原に運ばれてきたのでしょうか。またこの7つの石にはそれぞれ名前がつけられていますが、どんな意味があるのでしょうか。

伊那谷のいろいろな地形

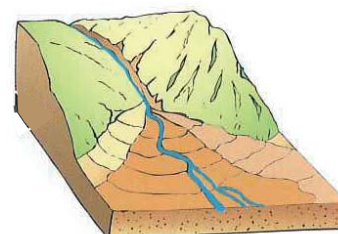
大地は、気の遠くなるような長い年月の間に、自然のさまざまな活動によって地形を変えてきました。そうした地形は私たちの身近な場所でも見つけることができます。空から見た伊那谷には、扇を広げたような形をした地形や、階段のような地形が何段もできている場所があります。どのようにできたのか考えてみましょう。



①山がけずられ、土砂が川によって下流に運ばれている。



②山から平地に出ると川の水の勢いがへり、運ばれてきた土砂が底にたまる。



③川の流が左右に移動しながら土砂をためていくため、土地がおうぎ形になる。

扇状地のでき方



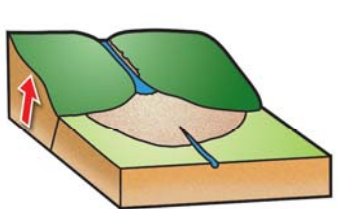
ながざわ 中沢から赤穂方面を見る



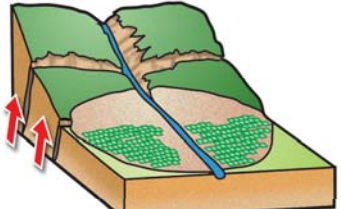
田を切るように川が流れている太田切川が地形がわかるね！

あかほちいき 赤穂地域

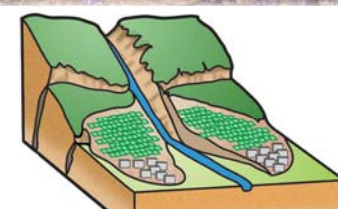
田切地形のでき方



①山地の土砂が平地に運ばれ扇状地ができる。



②扇状地を流れる川（支流）は川底の土砂を削りとりて天竜川本川に運ぶ。中央アルプスは断層で土地を切りながらはげしく上昇する。



③扇状地の土砂はやわらかいため短期間で深い谷をつくり、田切地形となる。

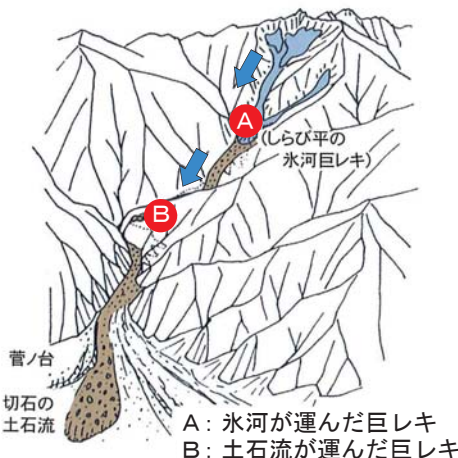
巨石のなぞをさぐる

7～5万年前ごろになると地球は氷河期に入ったといわれています。気温は低下し、高い山は氷河でおおわれるようになりました。

氷河期が終わり、2万年前ごろから地球はふたたび暖かくなったといわれています。氷河は下流へ少しずつ流れ、そのときに岩盤をけずって、巨石（大きな石のかたまり）を下流へと運んでいったと考えられ、そのとき、氷河が岩盤を大きくけずりによってできたお椀状の地形をカルルといいます。千畳敷カルルや濃ヶ池カルルは、中央アルプスの代表的なカルルです。



巨石を運んだ氷河と土石流



特に千畳敷カルルは木曽山脈（中央アルプス）の中で最も大きいカルルです。

また、氷河期が終わり地球が暖かくなっていくと、それにもともなって雨が多くなり、川の流量も増えました。こうした気候の変化の結果、この地域では、土石流がたびたび起きていたと考えられます。

この土石流が更なる扇状地をつくったと考えられ、駒ヶ根高原にある七名石や下流の太田切川内の巨石なども、この時期の土石流によって運ばれたものと考えられます。

河床大礫



「河床大礫」は、およそ 60 立方メートル（＝縦 5× 横 4× 高さ 3m）もある大きな木曽駒花崗岩です。木曽駒花崗岩の比重は 1 立方メートルあたり 2.76 トンであることから、「河床大礫」の重さはおよそ 166 トンにもなります。これはおよそ 2 万年前の土石流によって運ばれたものといわれています。当初は「太古の扇状地面」と同じ高さほどにあったと思われますが、扇状地が太田切川の浸食作用によって深く掘りこまれ、今の位置にあるのだと思われます。

学んだことを自由に書きましょう！





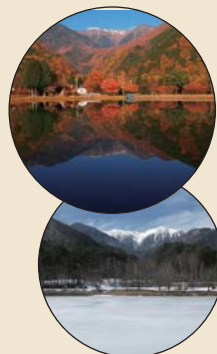
2 限目：伊那谷の地形と地質を学ぼう（3）

見学ポイント④



おおもこ 大沼湖

大沼湖は自然にできた湖ではなく、人がつくった人工の湖だということを知っていますか。
昔の人はなぜこのような大きな湖をつくる必要があったのでしょうか？
またこの湖はいつ頃、どのようにしてつくられたのでしょうか？



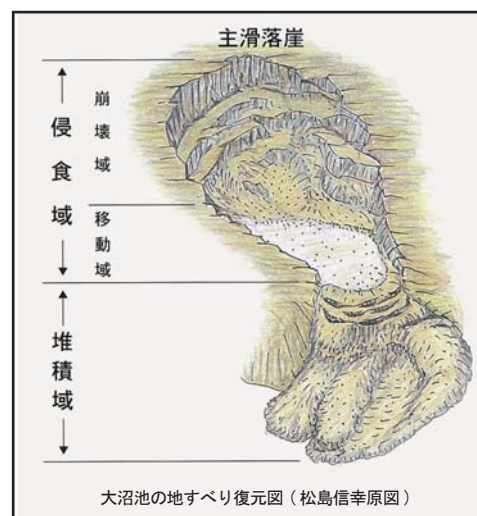
大沼湖ができるまで

実は、大沼湖は自然にできた湖ではなく、人がつくった人工の湖です。

中央アルプスから流れ出る水は夏でも大変冷たいため、そのまま田畑に引いてしまうと農作物の生長に悪影響をおよぼします。そこで昔の人は、水をいったんため池にためて温めてから田畑に引くように工夫しています。

また、池の背面にある山は古い時代に地すべりを起こしていたようで、斜面には円弧状の崖があります。すべり落ちた土砂は小山のように盛り上がるので、山側には窪地ができ、一の沢水系の水と自然湧水により昔から一面の湿地帯で、大沼と呼ばれていました。

昔の人はこの窪地を利用してため池をつくったようです。



しんしよく 侵食とは

水・氷・空気の流によって、地表が削られること

たいせき 堆積とは

水・風・氷などによって移動した岩石の破片や生物の遺骸が、最後に水底や地表に静止し、集積する現象。



ため池って何？

農作物を育てるために、「水」は欠かすことができません。

ため池とは、雨が少ない時期でも水を使えるように貯めておく人工の貯水池のことです。

ため池は全国に約21万箇所もあります。地形が急で、短く流れが速い河川が多い我が国では、農業用水を確保するために、古くから、多くのため池が造られてきました。

ため池はさまざまな役割を果たしています。普段気づかないものもありますが、もし、ため池がなくなると、私たちの生活は大きく変わってしまうかもしれません。ため池を新たに造り直すと、20兆円もかかります。古くから受け継がれてきたため池をみんなで守りましょう。

馬の放牧がさかんだった駒ヶ根高原

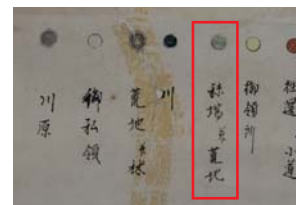
駒ヶ根高原では、中世や近世には馬の放牧がさかんに行われていたようです。

駒ヶ根高原を挟むように流れる太田切川も中田切川も、田切地形と呼ばれる深い谷をつくっていて、川岸は急な崖になっています。また、下流には断層がつくったとされる崖（断層崖）もあります。つまり駒ヶ根高原は、柵などつくらなくても馬が逃げる心配のないという、放牧にはちょうどよい土地だったのではないのでしょうか。

土石流の危険がある太田切川ぞいの土地が、秣場として活用されていたのはそのためと考えられます。



写真：文政年間（1818～1829年）の太田切川流域の古図（駒ヶ根市立博物館所蔵）



秣場とは

牛や馬の食料にするための草を刈り取る草地のことです。

市道山手線を持ち上げた光前寺断層

光前寺裏から大沼池・駒ヶ池の一体を菅ノ平と呼ばれていました。菅ノ平は光前寺の集落から一段と高くなっています。光前寺前から大沼池に上るには、30m余の標高差をもつ坂を登る必要があります。

また、菅ノ平北側の主要地方道駒ヶ根・駒ヶ岳公園線の駒ヶ根公園ちびっこ広場から駒ヶ池へ上る坂道の標高差は約10mもあります。菅ノ台一帯の東面にある坂道は、光前寺断層が動いた時の山側の土地が隆起してできた低断層崖なのです。光前寺断層は太田切川扇状地が後で動いている活断層であるといえます。



市道山手線が走る中央アルプス山麓（菅ノ台の入口から中田切川まで）



光前寺西の林が光前寺断層の断層崖（約30m）



3限目：太田切川（天竜川）での過去の災害を調べよう！

見学ポイント⑤



土石流の小山

土石流の小山は、古代～中近世の土石流の跡（土石流の石や土砂が積もってできたもの）と考えられています。
駒ヶ根高原一帯は、太田切川が山地から平地に出る場所に土石流が堆積した土石流扇状地です。
太田切川流域では、こうした土石流の堆積が氷河期から現代まで続いています。

伊那谷の特徴

伊那谷ではこれまで何度も土砂災害が発生し、大きな被害が出ています。
なぜ伊那谷は土砂災害によわいのでしょうか？

自然のようす

- 人が多く住む平らな土地まで急な山の斜面がせまっている
- たくさんの断層やわれ目があり、地質的にもろい
- 天竜川支流河川のこう配が急で流れが速い
- 全ての水が天竜川に集中する
- 天竜川では川幅がせまくなっているところがある

人の生活

- 川の近くに家が建ち、町がつくられている
- 森林を管理する人が少なくて山が荒れている

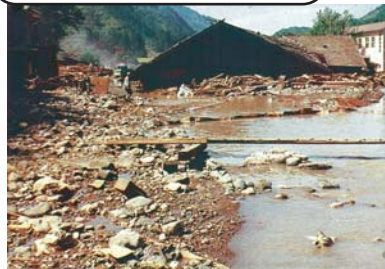
地域で起こった土砂災害

昭和 36 年（1961 年）



崩壊した大西山（手前は小渋川）

昭和 40 年（1965 年）



遠山川の氾濫で浸水したみなみしなのむら ちゅうしんぶ しょうわどお 南信濃村中心部昭和通り

平成 15 年（2003 年）



太田切川で発生した土石流により土砂で埋まった発電所施設

災害を経験された方のお話を聞いてみましょう

36災害・新宮川流域の被害（駒ヶ根市 新宮川）

昭和 36 年 6 月 27 日、梅雨前線による集中豪雨、時間雨量 40mm。
「駒ヶ根市中沢の新宮川の流域だけで死者 5 名、被災所帯 119 戸、被災人員 558 名、被害総額は 30 億 9000 万円にのぼる大災害となりました。
崖くずれは大松尾・戸倉山で 390ヶ所にのぼり、土石流は立木をそのまま押し流し橋や岩にぶつかってふくれあがり、新宮川を一気に下っていきました。」



駒ヶ根 新宮川

コラム

＜災害体験談＞

「父と私だけが生き残った」

真っ暗な闇の中に濁流の音だけが轟く。

安全な高台に逃げるには、ごうごうと恐ろしい音をたてて渦巻く川を泳いで渡るしかなかった。山仕事で鍛えた頑強な父であったが、二人の子どもを連れてはとても渡りきれない。まず小さな幸彦君を抱いて濁流を越えた。泣き続ける幸彦君に「ここでじっと待っている」と何度も言い聞かせて、再び濁流へ。けがをした美也子さんを背負い、ようやく岸にたどり着いた時、そこに幸彦君の姿はなかった。「結局、生き残ったのは私と父だけでした。祖父母と弟の遺体はすぐ見つかりましたが、母はずっと下流まで流されたらしくて、23回忌にやっと遺骨があがりました。兄はまだ行方不明のままです」住み慣れた駒ヶ根市中沢大洞から、市街地に近い経塚へ移った。父親と二人、何もかも一からの出直しだった。（「続・濁流の子」より）



駒ヶ根市中沢 大洞の惨状

家族の人にも過去に災害にあったことがあるか聞いてみましょう。



学んだことを自由に書きましょう！





4限目：土砂災害を防ぐために行われている取り組みについて

見学ポイント⑥



おたぎりとここがためこうぐん 太田切床固工群

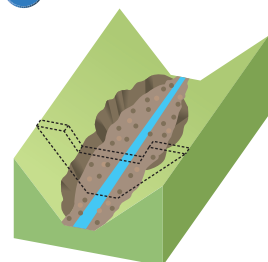
太田切川の中に石を積んだような構造物があります。これは床固工と呼ばれる砂防施設です。「砂防」とは土砂災害を防ぐ仕事のことで、太田切川流域では、大雨による土石流でたびたび被害を受けることがあり、そのため、土砂災害を未然に防ぐことを目的に砂防施設をつくっています。どのような種類があり、どのようにして土砂災害をふせぐのでしょうか？

砂防えん堤

砂防えん堤とは、洪水時に上流から流れてくる土砂をくい止め、その後少しずつ下流に流す施設のことです。目的に応じて、さまざまな種類のえん堤が活躍しています。

砂防えん堤のはたらき

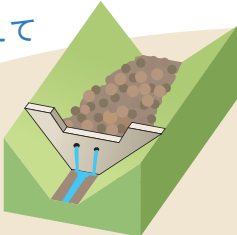
① 砂防えん堤設置前



砂防えん堤がないと、大量の土砂が一気に下流まで流れ出ます。

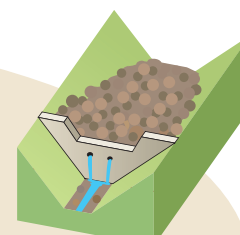
② 土石流にそなえて

砂防えん堤をつくと、上流から流れてくる土砂がたまり、川の流れをゆるくします。



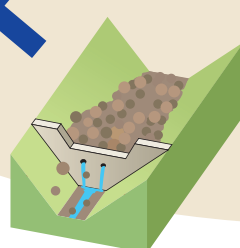
③ 洪水の時は

大雨などにより土砂が流れてきた場合、砂防えん堤はさらに多くの土砂を一時的にためて、土石流を防いでいます。



④ 洪水のあとは

一時的にためられた土砂は、その後の川の流れによって徐々に下流へ流し出され、②の状態に戻ります。たまった土砂を人の手によって取りのぞくこともあります。



砂防えん堤の種類



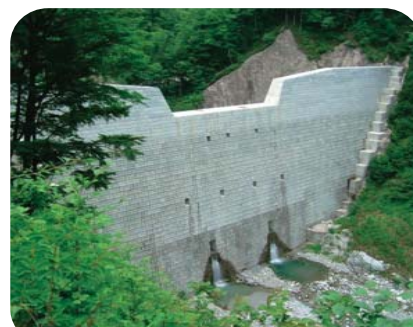
鋼製砂防えん堤

鋼製の筒の中に現地（げんち）の石をつめてつくられたえん堤。小規模の土石流（りゅうぼく）を通過させ巨石（きよせき）や流木だけをせき止めます。



アーチ式砂防えん堤

土砂による摩擦を防ぐため、表面に切石（きりいし）を張りつめています。

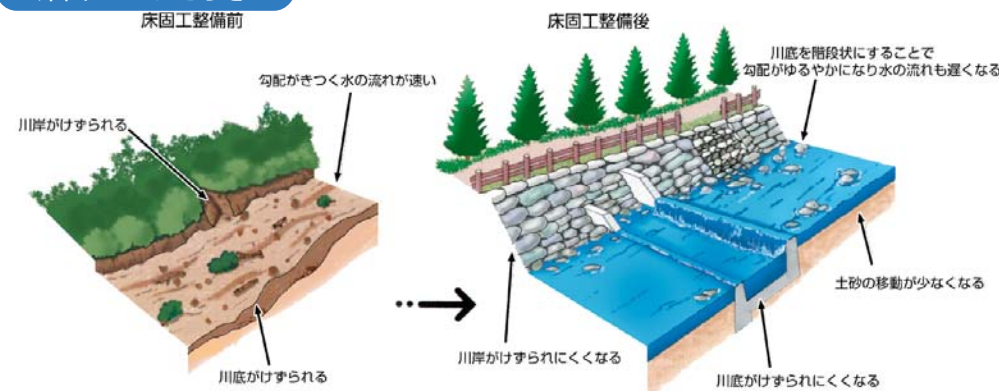


重力式コンクリート砂防えん堤

ここがためこう 床固工

川のこう配（こうはい）が急なところでは、増水時に水の力により堤防（ていぼう）や川底（かわぞこ）がけずられます。またけずられた土砂は下流に流されこう配がゆるいところに堆積（たいせき）して川の水があふれる原因（げんいん）になります。このようなことを防ぐために、こう配が急な川底を階段（かいだん）のようにして、水が流れるスピードを遅く（おそ）します。

ここがためこう 床固工のはたらき



大河原床固工群（大鹿村）

太田切床固工群をよく観察（かんさつ）してみよう！自然環境（しぜんかんきょう）に配慮（はいりょ）していることが分かるよ。



太田切川の川除林（駒ヶ根市下平）

洪水（こうすい）や土砂（どしゃ）の氾濫（はんらん）を防止（ぼうし）するため河岸（かわぎし）に赤松（あかまつ）を植えた「川除林（かわよけばやし）」の面影（おもかげ）を太田切川（おたぎりがわ）と天竜川（てんりゅうがわ）の合流点（ごうりゅうてん）付近（ふきん）に見ることができます。元禄四年（1961年）、二十数歩（にじゅうすうぶ）にわたり植林（しょくりん）されました。この年は長雨（ながあめ）や洪水（こうすい）がおり、伊那谷（いなだに）に大きな被害（ひがい）がありました。「川除林（かわよけばやし）」は、たくさん（き）の木（う）を植（え）て根（ね）を張（は）らせ水害（すいかい）に備（そな）えたひとびと（ひとびと）の知恵（ちえ）だったのです。



※歩（ふ）は長さ（たんい）の単位（しゃく）。8尺（しゃく）または6尺（しゃく）（2.4mまたは1.8m）

まな 学んだことを自由に書きましょう！





5限目：土砂災害に備えるために

危険な場所を確かめておこう

土砂災害のおそれがある場所を事前に確かめることができる地図があります。地図には土砂災害の危険箇所だけでなく、避難場所などものっています。

また土砂災害の危険箇所には様々な看板が設置されていますので、危険な場所を調べてみましょう。

防災マップ(ハザードマップ)



宮田村防災マップ

土砂災害危険箇所の表示板



砂防指定地



急傾斜地崩壊危険区域



地すべり防止区域



土石流危険渓流

日頃からできることは何だろう？

●避難場所を決めておく

避難場所と行き方を家族の人と決めておこう。



●連絡先を決めておく

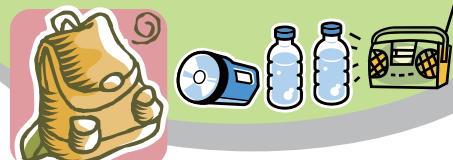
家族がばらばらになった時のための連絡先を決めておこう。



家族の人と決めたことを書いておこう

●非常用持ち出し袋を用意しておく

災害時に何が必要になるか家族で話し合っ、1つの袋にまとめておこう。



家のまわりをチェックしてみよう

土石流

- ・近くの渓流にかつて土石流が起きた話はないか
- ・渓流のこう配が急で、とくに大量の土砂が積み重なっていないか
- ・川原に中・高木が育っていないか
- ・転がってきた石に苔がない渓流ではないか

がけくずれ

- ・傾斜地の角度が30°以上、又は、上部がはり出していたりしていないか
- ・がけに浮石や割れ目、あるいはわき水や落石などがいないか
- ・がけの頂上付近に新しいひびわれができていないか
- ・斜面にある物が変形や移動していないか

がけくずれ

- ・ゆるい傾斜地の傾斜が一様でない地形ではないか
- ・斜面にはえている立木が曲がったり、不ぞろいになってはいないか
- ・雑草が生えた棚田になっていないか
- ・がけの上部などにすべった跡のようなところはないか

土砂災害の前ぶれに注意

土砂災害が起こる前に、「前兆現象」といっていくつかの前ぶれが見られることがあります。こんな光景をみたら、周囲の人に知らせて、早く避難しましょう。

小石がパラパラ落ちてくる



山鳴りがする



雨が降り続けているのに川の水位が下がる



斜面から水が吹き出す



地面にひび割れができる



それぞれの現象にはどのような災害のおそれがあるのだろうか？



学んだことを自由に書きましょう！





かがいじゅぎょう ちいき 課外授業：地域のことをもっと知ろう！

見学ポイント⑦



こうぜんじ 光前寺

光前寺は 860 年（貞観 2 年）に建立された有名なお寺です。
このお寺は早太郎伝説や光苔などでよく知られています。門前周辺
にはしだれ桜がたくさん植えられていて、春には美しく咲きほこり
ます。
また、光前寺内や周辺には七名石と同様に名前がついた巨石が点在
しています。一度探してみましよう。

光前寺に伝わる早太郎伝説

- 御本尊 不動明王
- 宗 派 天台宗（比叡山延暦寺末）
- 開 基 本聖上人
- 開基年代 清和天皇貞観 2 年（860 年）

てんだいしゅう おし しゅうは
天台宗とはどんな教えの宗派
でしょうか？調べてみましょう。



光前寺は、古くは武田・羽柴家などの武将の保護を受け、特に徳川家からは地方寺院として破格の
60 万石の寺領と 10 万石の大名格与えられたなど隆盛をきわめました。
今なお樹齢数百年の杉の巨木に囲まれた境内は、長野県下屈指の大寺であり、広く信仰を集めています。
また、境内全域が名勝庭園として国の文化財に指定されています。

光前寺にまつわる早太郎伝説とは・・・

むかし、むかし
700 年ほど前のはなし。
光前寺には風のように早く走る「早太郎」
という山犬が飼われていました。ある日、
一実坊という旅の坊さまが訪ねてきまし
た。
「遠州（静岡県磐田市）で、祭りの日に娘
をお供えする悲しい習わしがあり、それが
化け物の仕業なんです。」「化け物が恐れて
いる早太郎をさがしてここまで来ました。
どうか早太郎をかしてください。」それを
聞いた光前寺の和尚さんは「早太郎、行っ
て助けてあげなさい」と言いました。

早太郎は遠州に向い、娘の身代わりとなっ
て化け物の”老ヒビ”を死闘のすえ退治
したのでした。
傷ついた早太郎は、光前寺に戻ると静か
に息を引き取りました。その後、早太郎
は「霊犬早太郎」と言
われ、
不動明王の化身とし
て、また災難除、
厄払の御利益があると
言われ、信仰をあつめ
ています。



※早太郎伝説がとりもつ縁で磐田市と駒
ヶ根市は友好都市になっています。

どせきりゅう 光前寺と土石流

光前寺は太田切川・中田切川の土石流氾濫域を避けた位置にあり、安全な場所に立地しているこ
とが分かります。光前寺の中に点在している巨れきは、約 14 年以上前に太田切川の土石流によっ
て運ばれたものと考えられています。

かみいな ちめい ゆうい 上伊那の地名とその由来

地名にはさまざまな由来があります。
私たちの暮らす上伊那の地名にかくされた由来を紹介します。

たぎり 田切

伊那谷北部には「田切」という地名が集中しています。
太田切川や中田切川などの「田切」とは、扇状地に深い谷をつくって流れる川が、まるで田を切ってい
るように見えることから来た表現だといわれていますが、これとは別に、水が勢いよく流れるありさま
をいう動詞「たぎる」から生まれた言葉だという説もあります。

みやだ 宮田

「宮田」という地名が発生したころ、この地域では文字は一般化しておらず、口頭でしか使われておらず、
「みやだ」は「み」と「やだ」の二つの言葉から成り立っていると考えられます。
「み」は古い地名に数多く見られ、これは川や湿地を表わします。具体例は「箕輪」「御園」「神子柴」な
どがあります。
「やだ」については、これもまた湿地をいうものとみられ、具体例は「谷田」などがあり、「宮田」は湿
地帯を表わす地名だと考えられます。

あかほ 赤穂

駒ヶ根市は昭和 29 年に赤穂町、宮田町、中沢村、伊那村の二町二村が合併して生まれたものです。
そして「駒ヶ根」はその際、一般住民の意向を基に命名された新しい地名です。
合併前の「赤穂村」は明治 8 年に赤須村と上穂村が合併し、両村から「赤」と「穂」をとって赤穂村が
生まれています。「赤須」は赤土のこと、「上穂」は段丘の高いところの意味ともいわれています。



？ まわりの地名にどんな由来があるのか郷土史などを頼りに調べて
みましょう。その地域の昔の様子が見えてくるかもしれません。

まな じゅう か 学んだことを自由に書きましよう！





かがいじゅぎょう こまがねし みやだむら つた さいがい よ
課外授業：駒ヶ根市・宮田村に伝わる災害おはなしを読もう

こまがねし みやだむら さいがい
駒ヶ根市・宮田村に伝わる災害

おはなしマップ



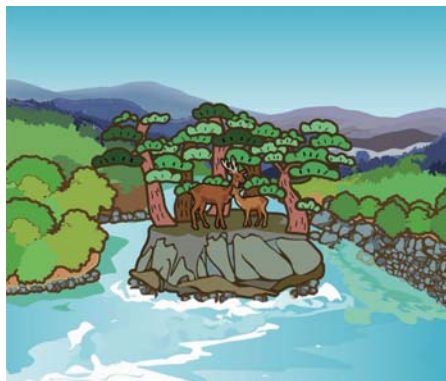
1 うきしま こまがねし てんりゅうがわこかじおおはし じょうりゅうふきん
浮島（駒ヶ根市 天竜川小鍛冶大橋より上流付近）

むかし、天竜川の中にどんな洪水の時にもけっして沈まないとい
う不思議な大岩があり、「浮島」とよばれていました。

「そのむかし、東の山から一頭の鹿がでてきてな、里の人々が捕ま
えて皮を剥いてみたんじゃ、この鹿の腹の中には小鹿が宿っておっ
てな、哀れに思った人々は袋子を浮島へ埋めたそう。母鹿は小鹿

をおぼれさせまいとしたんじゃろ、洪
水でどんなに川の水が増えても島を浮
き上がらせたそうじゃ。」

時の流れとともに天竜川の河床が上昇し浮島は埋没してしまいましたが、
当時の浮島は大岩の上に水神様が祀られ、その周りには5本の赤松が植
られていて、とても美しい姿をしていたということです。



2 さかもとてんざん こんでん ひ こまがねし ひがしいな
阪本天山の壱田の碑（駒ヶ根市東伊那）

竜や河童が棲むと恐れられていた「下がり松」と呼ばれる淵がありました。寛政
元年（1789年）に天竜川の大洪水で川筋が西へ移り、下がり松の淵は枯れ、こ
の辺りは荒れ果ててしまいました。この地に屋敷をかまえていた中村新六は、堤防
を築き、水を引き入れるためのトンネルを掘って美田を築き上げました。高遠藩の郡奉行であった坂本
天山は、美田の一角にあった巨石に、中村新六の偉業を称えた碑文を彫りました。



さて、下がり松の淵にいられなくなり困り果てた河童は、中村新六殿が壱田の帰り道、「良いこ
とを教えてあげる」と言って馬のしっぽにつかまり、屋敷にたどりつきました。そこで河童は、痛風
にきく妙薬の作り方を伝授したところ、この河童の妙薬が諸国で大いに売れて、中村家は大
繁盛したということです。

3 のうがいけ みやだむら こまがたけ
濃ヶ池（宮田村 駒ヶ岳）

荒らせばたちまちに雨が降ると伝えられる濃ヶ池。むかし、駒ヶ谷のふもとの内の萱という部落に、
母親と二人きりで暮らしていた娘が、大蛇の化身であった若者の後を追って、同じ
この池に身を投じ、若者は竜に、娘の霊は鬼と化して池に棲むようになったという。
（長野県上伊那郡誌第五巻民俗篇上より）



大正十三年（1924年）の夏、旱のための水の奪い合いがおこった時、光前寺の檀徒が安置し
てあった青獅子を持って西駒ヶ岳に登頂し、濃ヶ池の清水を青獅子に注いで雨乞いの祈願をしたとこ
ろ、突然雷鳴とともに雨が降り出し、村人の争いは治まりました。青獅子や川・池に棲む竜や大蛇には、
水を司る力があると信じられています。

4 むえんぼとけ みやだむらおおたぎり
無縁仏（宮田村太田切）

太田切川は、「人取り川」とも呼ばれていたほど、大水がでると荒れる川でした。
一天明三年（1783年）五月、この地を旅した菅江真澄は「伊那の中路」に「田切田
切七たぎりある中にも、心すべきは大たぎりなり、水あらく石たかにして、先達なく
ては渡りえ難し、まして雨いささか降りてみかさまされば、水にいそはえて留まるべ
し、この川、年毎に人ながれ侍るを、ためしのよふにおぼへはべる。今年も旅人二人
死したると里人語りぬ。」と記している。（歴史の道調査報告書Ⅵ～Ⅹ、伊那街道より）

伊那街道の難所のひとつであった太田切の渡し場近くには、「無縁仏」と呼ばれる石造物二十二基があり、
洪水で流されてしまった旅人の霊を弔ったところと伝えられています。川が整備され、洪水被害は少な
くなりましたが、川下を向いて鎮座している大日如来像は、不慮の死を遂げた旅人や暮らしを支える大
切な馬を流されてしまった人々をいたわるように今も見守っています。



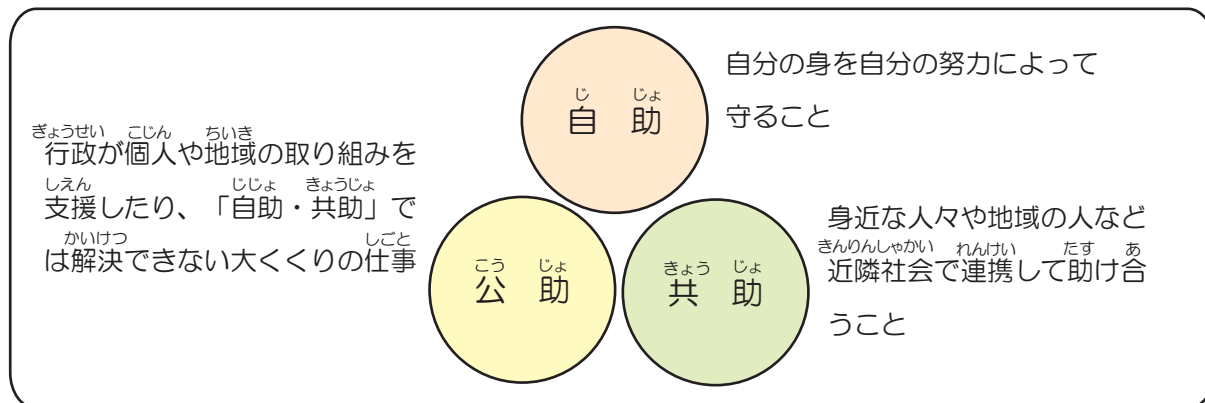


6限目：災害時の対応について考えよう！

災害を軽減するために重要なこと

災害を軽減するためには、「自助、共助、公助」が重要であると言われています。

例えば、阪神淡路大震災では、倒壊家屋の下から救出された全体の約3/4の方々は、地域住民の方々から助け出されたと言われています。このように、自らの身は自分で守ること、隣近所が助け合って守ることなどが大切です。



自分たちでそれぞれ出来ることはなんだろう？

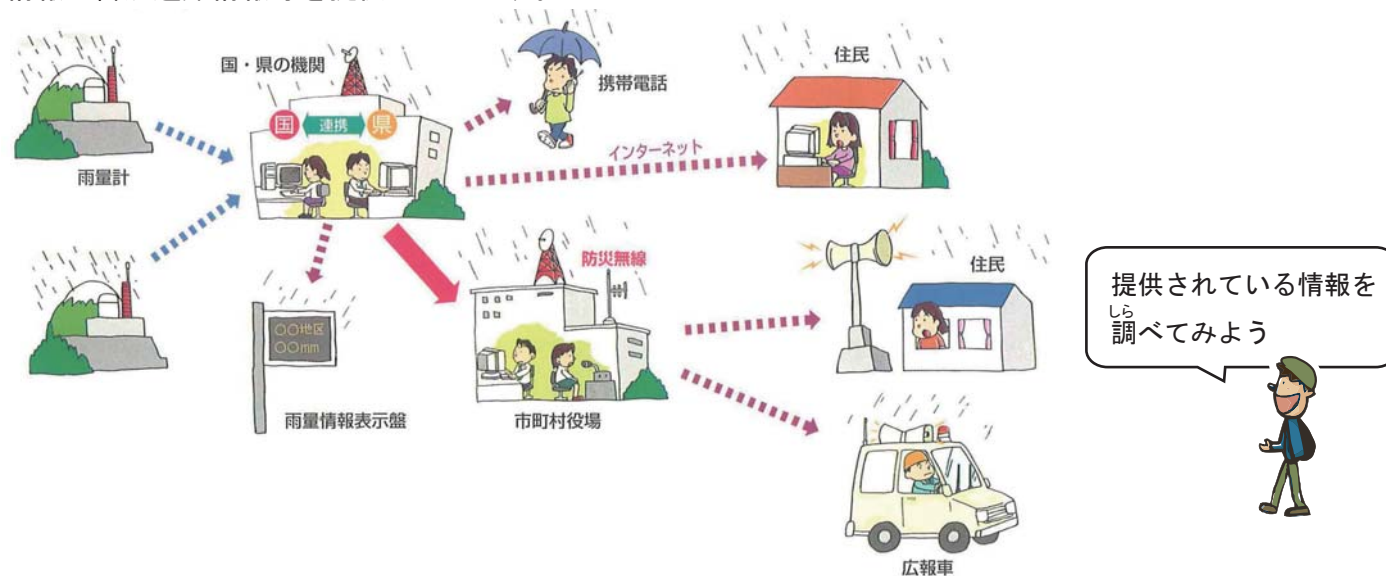
「自助」自分の身を守るためにできること

「共助」身近な人々を助けるためにできること

「公助」として行われていること

- 土砂災害に関する情報提供

土砂災害にあわないためには、迅速な警戒・避難が大切です。そこで、行政は関係機関と連携して、雨量情報や警戒避難情報等を提供しています。



災害が起こったらどうするか

土砂災害の危険を感じたら、早めに避難することが大切です。

テレビやラジオで情報収集

防災無線や広報車による呼びかけに注意する

声のかけ合いと助け合い

雨の情報などの気象情報を知ることが大事です。

避難勧告や避難指示があれば従いましょう。

お年寄りや体の不自由な方などには、近所の人とも協力して避難しましょう。

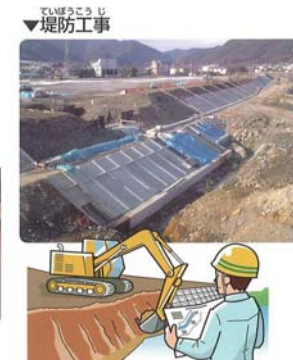
災害を防ぐために働く人びと

災害はいつ、どこで起こるか分かりません。災害を未然に防ぐために、いろいろなところで、いろいろな人がたえず努力をしています。

監視カメラ
はなれた場所においても、川のような安全かどうか監視カメラで見ることができます。



ダム管理
雨がふっていないときはダムの水を流し、大雨のときは水をためています。洪水が起こらないように調節しています。



パトロール
川にある堤防や、いろいろな施設がこわれているか、つねに見回っています。



観測

川の水の高さや雨のふった量ををはかる観測所を多くの地点にもうけ、無線で情報を送っています。



▲観測所 (量水塔)

堤防や砂防えん堤をつくる
洪水や土石流による被害をふせぐために、堤防や砂防えん堤をつくっています。



学んだことを自由に書きましょう！

